声　Voice

朝日新聞 2018 年（平成 30 年）11 月 29 日（木）

優しさや親切って何だろう

大学生　中村　祐輔
（奈良県　20）

優しさって何だろう、親切って何だろう、そう思うことがあった。

通学の電車に乗っていた11月のある日、席が空いていたので座った。次の駅で、白髪で杖をついたおじいちゃんが乗ってきた。僕の前に立ってつり革を握った。足が不自由そうに見えたので、席を譲ろうと思い「どうぞ」と言って席を立った。

しかし、おじいちゃんに「そういうのはやめてくれ」と言われた。理解ができなかった。なぜそんなことを言われたのだろうか。僕の行為のどこが悪かったんだろう。

その後、自分の何が悪かったのか考えた。20歳の僕から見ればおじいちゃんに見えたが、それは僕のとらえ方だ。勝手にお年寄りと認識されたと思われ不快だったのかも知れない。

優しさや親切は難しい。でも優しさも親切も気持ちだ。これからは、相手の気持ちを考えたうえで、優しさや親切を行為にできるようにしたい。

朝日新聞 2018 年（平成 30 年）12 月 1 日（土）

「気をつけて」事故防ぐ効果

大学生　東　克哉
（奈良県　19）

「気をつけて行ってらっしゃい」。出かける際、無意識に言っているし、言われている。この言葉にはどのような効果があるのだろうか。

この言葉を両親から毎日言われるようになったのは、約1年前からだ。昨年8月から自動車学校に通い始め、12月にようやく卒業検定に受かり、ついに普通免許を取得できた。免許を手にした私は、毎日のように車で出かけている。

心配性の母は私の運転が荒いことに気づくと、家を出る前に「気をつけて行ってらっしゃい」と決まり文句のように言うようになった。まだまだ初心者だから、心配する母の気持ちも分かった。3カ月くらい経てば母も少しは安心するだろうと考えた。しかし3カ月後、決まり文句が父にも伝染していた。

自分が気をつけていても事故は起こる。けれど「気をつけて」とこの言葉のやりとりをすると、言われないときに比べて事故にあわないような気がする。

今日まで無事故で来られたのは私の実力ではないと理解した。私が事故を起こす時、それは両親が心配しなくなった時だろう。

※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。

承諾番号「18-5606」